

# 光市医師会報

昭和63年 4月号

No. 186



第3次「竹中丸」出航

光市医師会

昭和63年度 **新執行部会務分担表**

S63. 4. 1 光市医師会



No	会務区分	担当者
1	総務	竹中昭二
2	会計	藤原邦彦
3	会員福祉	梅田馨
4	広報	吉村明人
5	生涯教育	赤崎信正
6	保険	近藤龍一
7	医事紛争	丸岩巖
8	麻薬	丸岩巖
9	地域医療計画	丸岩巖
10	救急医療	丸岩巖
11	住民保健	富恵哲
12	産業保健	丸岩巖
13	学校保健	福本寿雄
14	税務	梅田馨
15	労務	梅田馨
16	労災・自賠償	近藤龍一



## 新年度を迎えるにあたって

光医師会長 竹中昭二

本年度は役員改選の年であり、去る1月の臨時総会に於て新執行部が誕生致しました。私としましては第三期目を務めさせて頂く訳であります。医師会業務がマンネリ化しない様、初心に還って会の運営にあたり、会業務の支障のない様にと心に誓っております。

このたびは永年役員として活躍された、中村琢美理事、板垣省三理事が勇退、新しく吉村明人先生、赤崎信正先生が新理事に就任され、従来と同じく強力な体制ができ、心から喜んでおります。中村琢美先生は昭和57年4月から三期間、保険、税務担当理事として活躍され、当医師会の保険診療の向上に御貢献を頂きました。又、板垣先生は昭和53年4月以来五期にわたり主に学術担当理事の業務を担当される傍ら光市医師会と光市立病院の連携に盡力されました功績は大であります。

また新しく理事に就任されました吉村明人先生、赤崎信正先生はいずれも新進気鋭の方で今後の光市医師会発展のため大活躍されるものと期待しております。

尚、新執行部の発足にあたり、先に申しました様に医師会業務がマンネリ化しない様にする為、別表の様に各理事の担当を変更致しました。各理事が持ち前の手腕とユニークな構想を発揮して頂き漸進な医師会運営が出来る様に期待する所大であります。

さて今年度も我々を取り巻く医療環境は

残念ながら益々厳しいものと覚悟しなければなりません。度重なる薬価基準の引き下げ、保険医療（老人医療を含む）のしめつけ等々医療経営も困難の度を増すものと思われれます。一方税制においては保険医療における事業税の賦課の問題、五段階制の所得税に関する問題も税制改革の過程に於て中央で論議される事でしょうが、これには日医の対応を注視すべきであると思います。

会務については学術団体である医師会として生涯教育に真剣に取り組む必要を痛感します。最近の目を見張る様な医学医術の進歩にとり残されない様に、各種研修会、講演会等も従来通り隣接医師会と連携を取り乍ら実施したいと思っております。山口県医師会が主宰する生涯教育関係の各種講演会等にも市医師会員が出席し易い様に本年もバス運行等を実施し、併せて親睦の実をあげる様に計画しております。

福祉関係におきましても毎年行っております親睦会、懇親会等には可能な限り全員出席を願ってやみません。

光市医師会報については月1回の発行で担当理事は甚だ御苦労も多い事と思えますが前担当理事の新着想等により県下でもユニークな会報と言われる様になりました。このたび担当理事の変更がありました。会員のご協力を保ちながら更により良い会報にしたいと思えます。医師会報の発行は紙上を通じての会員相互の意志の疎通、連携

連帯を図り、また家族、従業員に対し医師会活動の理解を求める目的でもあります。

又、老人保健法による検診業務も本年度より乳癌検診が加わり検診の多様化が進みますが、医師会としても会員各位の御協力により対応してゆかねばならないと考えております。

尚、救急医療業務の一端としての日曜在宅医、住民保健の為に各種予防接種業務、或は学校保健における学校医活動、又産業医活動等も従来通り進めてゆかなければならない課題であります。

最後に会員の皆様には、この様に医師会環境は複雑多様化する中で、総会、月例会、各種研修会には会務精進の為に、又各自医療内容の向上の為に、或は医事紛争に対する自己防衛のため出来るだけ出席をお願い致します。もちろん執行部も一致協力して会務に専念する覚悟でございます。

会員諸先生のご指導、御協力をお願い致します、新年度発足のあいさつと致します。



春らんまん

### 保険点数改正 説明会風景



## 偶 感

副 会 長 福 本 寿 雄

もう60才を過ぎたので、この辺で理事を停年にして頂きたいと思っていた処、またまた副会長にさせられてしまった。顧みると、理事になって17年、副会長8年もやったことになる。永年理事をやっていると、次第にマンネリズムになり、ぼつぼつ頭の新しい若い先生方に変って頂きたいと思っている。

永らく住民保健、学校保健ばかりやっていると、市の保健センター、教育委員会、国保係、福祉事務所の職員達と親しくなったが、一方ではズケズケ言いたいことを言うので、少々煙たがられている気配を感じる。しかし、これだけは医師会の為、強引に言わなければならない時は、市の人達も「先生には、かなわない」と仕方なく受入れてくれることも多かった。

考えてみると、医師会という団体は官庁のような縦の系列ではなく、小さくとも一国一城の主の集りであり横の系列である。従って意見が食違ったり、派閥が出来たり、喧嘩になったりするの当然と言えば当然である。しかし幸なことに光市医師会は諸先輩方の指導よろしく、派閥もなく特別偉い人(?)もなく、特別変人(?)もないし又人数的にも適当でよく纏まった医師会と自負出来ると思う。従って医師会の役員は頂点に立つ偉い人ではなく、高等小使と言う一種の世話人、まとめ役と言うところであろうか?。ですから今の役員は全員、人の良

い人(バカと言う意味でなく)、世話好きの人達のように思う。

役員になって良かったと思うことは、生涯教育講座等に医師会でバスを仕立てて行くので、ここ2年間全部に出席出来た。学会で講演を聞いても、なかなか頭に入らないし、又すぐに忘れてしまうにしても、少しでも勉強しなければいけないという気持が残る。又楽しみは帰りのバスの中で皆と一諸に酒を飲んで、ワイワイ雑談に耽ることである。又理事会、月例会は勿論納涼懇親会、忘年会、三師会、親睦旅行やスポーツ大会等に全部出席し、人一倍親睦を深めたように思う。そのお蔭で若い先生達の考え方、先輩の先生方の気持が少しは判ったような気がする。

これからの医療問題は、ますます厳しくなってくることは必至である。これに対応するには、医師会員の融和と団結が最も大切だと思う。そして乳幼児から老人迄すべての住民の中に深く這入り込み、ホームドクターとしての健康相談、健康診断は勿論、医師会全体としての健康教育、疾病の予防対策、早期発見の為の検診等に力を入れて行くべきだと思う昨今である。



# 医師会月間行事

## 昭和63年3月度理事会

3月8日(火) 午後7時30分～  
光市医師会館

### 議題(報告・協議事項)

- 1) 第107回山口県医師会代議員の報告  
(竹中 会長)
- 2) 昭和63年度会務分担について  
(竹中 会長)
- 3) 昭和63年度事業計画について  
(竹中 会長)
- 4) 乳がん検診について  
(竹中 会長)
- 5) 光市国保人間ドック更新の件  
(福本 副会長)
- 6) 光市学校保健会の件  
(福本 副会長)
- 7) その他  
兼清照久先生 4月1日より入会

## 研修会(学術講演会)

3月29日(火) 午後7時20分～  
光市保険センター

演 題

「腹部超音波による  
集検の現状」

講 師 山口労災病院消化器内科部長

河 村 奨 先生

## 昭和63年3月度月例会

3月26日(土) 午後7時00分～  
光市医師会館

### 議題(報告・協議事項)

- 1) 第107回山口県医師会代議員会の報告  
(竹中 会長)
- 2) 光市国保人間ドックの更新の件  
(福本 副会長)
- 3) その他

## 保険点数改正説明会

3月26日(土) 午後7時00分～  
光市医師会館  
(中村琢理事) (近藤理事)



学術講演会

理	事	一	年	生	デ	ス	。	ヨ	ロ	シ	ク	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

生涯教育の担当となって

赤崎 信正

この度、板垣院長の替りに、生涯教育担当の理事になりました。今までは、医師会会長・理事の先生のお善立により、興味のある研修会に、後の席で聞いていましたので、さて、4月よりの学術研修会を何如に開催しようかと思案している所です。

研修内容については、下松医師会、富恵理事と相談し、会員の先生方の御希望の強い内容を開催したく思っています。

私自身、病理にいたせいか、現在、新聞紙上を賑わしている「AIDS」や「臓器移植」「肝炎」etcにも少し興味がありますが、やはり、3月の研修会のように、日常診療に関係する内容がよいように思っています。

今から2年間の任期を無事につとめたく思いますので、宣しく、御支援の程をお願い致します。



「泣きごと」と

「アトガキにかえて」

吉村 明人

なぜだかわかりません。広報担当に指名された事が。わからないと言っても仕方ありません。医師会報を編集しなければなりません。しかしこれがまたどうしてよいのかわかりません。

編集者は「企画の立案」「原稿集め」「写真撮影」「レイアウト」等をしなければなりません。その中でもっとも大切なことは企画の立案と言われております。企画のネタになるヒントは新聞・テレビ・雑誌・広告・人との会話などいくらでもあります。しかしそれを自分のものとして応用できる能力があるかどうかでしょう。いわゆる企画力です。

企画と言えば以前こんな話を讀んだ事があります。日本語の原点である「いろはにほへと…」の「いろは歌」は表面上は仏教の教え歌となっていますが、実は死刑囚の柿本人磨呂が暗号で綴った遺書であったと言う説です。また正月のカルタ取りの遊びでおなじみの「百人一首」は藤原定家の名歌選集となっておりますが、本当は定家が承久の乱で隠岐に流された後鳥羽上皇への心情を匿した暗号だったと言うのです。編集紙の企画とは多少趣きを異にしますが、古人の企画の着眼に驚嘆しております。

今迄何気なく読み流していた会報を、改

めて何度も読み直してみますと、先輩提当理事が紙面のすみずみ迄気を配って苦勞しておられる姿が伝わってきます。だんだん気が重くなってきました。今の心境を相撲にたとえるなら、横綱（梅田先生）が突然休場したため急にフンドシカッギ（吉村）が結びの一番に引っぱり出され、ただオロオロしているそんなところでしょうか。

番町皿屋敷のお菊ではありませんが「あと一枚（一回）あと二枚（二回）……あと二十三回」。



連絡事項

63年3月末にて「緑友会」を解散し、同年4月より「光医歯会」と改称し発足。

63年度医師会乾事 横山 宏先生



昭和63年4月入会

兼清照久先生

プロフィール



(学歴)

昭和45年3月 山口県立光高等学校卒業

昭和46年4月 神戸大学医学部入学

昭和52年3月 同上 卒業

(職歴)

昭和52年4月 神戸大学第2外科入局

昭和52年7月～53年6月 神戸大 研修医

昭和53年7月～57年6月 高砂市民病院・

相生播磨病院・神戸大附属病院勤務

昭和57年7月～現在 城陽江尻病院

外科医長

(家族)

妻・子供（一人）

(趣味)

読書・テニス・ゴルフ・野球

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社